

令和8年度 大阪府立堺聴覚支援学校 第1回 学校運営協議会

日 時 ; 令和8年7月15日(水) 9:45～11:45

場 所 ; 大阪府立堺聴覚支援学校 会議室

出席者 ; 校長 甲斐 俊夫

【協議会委員】 井坂 行男 (大阪教育大学教育学部 教授)
石田 智子 (堺市立百舌鳥支援学校 校長)
早川 良次 (シャープ特選工業株式会社 社長)
廣瀬 宜礼 (和泉大学 講師)
真部 信一 (堺ろう学校同窓会 会長)
田原 美奈 (本校PTA 会長)【欠席】
【事務局】 教頭・事務長・首席(田中欠席)・幼稚部主事(欠席)
小学部主事・中学部主事
【傍聴者】 無し

1 開会

2 学校長より挨拶ならびに委嘱状の手交

3 校内見学 中学部→ 小学部→ 幼稚部

4 協議

(1) 令和8年度学校経営計画について(校長より説明)

【委員からの主な意見・質問及びその回答】

1. 地域に開かれた安全安心な学校づくりについて

- 被災時の聴覚障がいのある子どもたちの避難やその後の対応についてどうなるのか。
→ 本校は堺市より福祉避難所に指定されている。災害発生時に地域避難所での避難生活が困難な際は堺市が主導して本校を福祉避難所として開設し、聴覚障がいのある方とその家族を受け入れる体制を整えている。
- 卒業生や社会で活躍するろう者をロールモデルとして紹介する取組について。著名な方や活躍している方だけでなく、地域や職場、家庭など様々な場面で活躍しているろう者の姿を紹介し、子どもたちが多様な生き方や将来像を描けるようにしてほしい。
- 幼稚部の時代から先輩の体験談や地域で生活する卒業生の経験を伝える取組も大変有効であるので取り入れるとよいのでは。

2. 確かな学力の育成について

- キャリア教育、進路支援の取組について。社会で活躍する先輩や企業で働く方々の話を聞く機会を通して、子どもたちが目標をもち、自らの将来を考える力を育てていくことが大切である。
- 自分の聴覚障がいに対する理解や周囲への支援要請について学ぶことが重要である。ロールモ

デルとなる先輩たちが、社会生活の中でどのように周囲へ支援を求めながら活躍しているのかを知ること、子どもたちにとって貴重な学びになるので取り入れてほしい。

- ・ 自分で目標設定ができる力が必要。就労支援アドバイザー派遣事業を活用する中で、事業に関わる企業がどのように進展してきたかも知って欲しい。

3. 支援教育の専門性向上について

- ・ 掲示物や教材が教室で見られた。これを効果的にくり返し活用し、学習内容の定着につなげる取組をさらに進めてほしい。

4. 聴覚障害教育のセンター的機能について

- ・ 通級指導や教育相談を利用している児童生徒の学習や交流の様子について、今後機会があれば見学したい。
- ・ ICT や AI 技術の発展により、手話認識など新たな支援技術への期待がある。

5. 働き方改革について

- ・ 月 1 回の全教職員一斉定時退庁日の設定について、教職員の健康維持や働きやすい職場づくりにつながる取組である。
- ・ 教職員が心身ともにゆとりをもち、笑顔で教育活動に取り組める環境づくりが重要。
- ・ AI や ICT を活用した業務改善は校務の効率化に有効であり、創出した時間を教育活動やコミュニケーションの充実に活用してほしい。

(2) その他、ご意見・ご質問

- ・ 子どもたちがいきいきと学習に取り組み、教室や学校全体が明るい雰囲気であった。
- ・ ICT 機器や大型モニターが効果的に活用されており、分かりやすい授業づくりが進められている。
- ・ 教員と児童生徒のコミュニケーションが豊かで、学習の目標が明確に示されていた。
- ・ 廊下や教室の掲示物が充実しており、学びを支える環境づくりが工夫されていた。
- ・ 同窓会も文化祭に参加する等して子どもたちとのコミュニケーションにつなげていきたい。
- ・ 手話や視覚的支援を効果的に活用した授業が行われており、専門性の高さが感じられた。

5 事務局より連絡

第 2 回学校運営協議会 11 月 30 日（月） 9 : 45 ~ 11 : 45

6 閉会の挨拶（校長より）